

周南市まちづくり総合計画 後期基本計画【改訂】

平成22年度 ▶▶ 平成26年度

2010 ▶▶ 2014

概要版



「オール周南! “もやい”で進めるまちづくり」

私は、平成23年5月、市長に就任し、このたび、今後の市政運営の指針となる「周南市まちづくり総合計画後期基本計画」を改訂しました。

人は「共に支え合い」そして「分かち合う」ことで、はじめてぬくもりを感じ、幸せを共有することができると信じています。

この計画では、市民一人ひとりが、住み慣れた地域でいつまでも笑顔で生き生きと暮らすことのできるまちを理想とし、これからのまちづくりを進める上での共通のテーマを、「オール周南! “もやい”で進めるまちづくり」といたしました。

今の市民のため、そして将来の市民のため、本市にかかわる全ての力を結集し、オール周南で、市民一人ひとりが大切にされる「ふるさと周南」の実現にまい進しますので、ご理解とご協力をお願いします。



周南市長
木村 健一郎

緊急
プロジェクト

産業活性化・ 活力創造プロジェクト

本市のみならず山口県経済を牽引してきた周南石油化学コンビナートや、全国有数の徳山下松港をはじめとした産業基盤のさらなる整備とともに、新規プラントが操業しやすい環境づくりを促進するほか、新たな工業や農林水産業等の融合による周南ブランド化を進め、本市の産業活性化に取り組みます。

将来を見据えた活力ある地域の振興

産業基盤の確保

- 国際競争力のある港湾等産業基盤の整備
- 企業誘致並びに既存企業における新規設備投資促進のための環境の整備
- 農商工連携による周南ブランドの育成

財政健全化 推進プロジェクト

将来展望に立った財政運営、持続可能な自治体経営を行うため、「選択」と「集中」を柱とした行財政改革により、施策の重点化と行政のスリム化を進めるとともに、次の世代に対しても福祉、教育などの欠かすことのできない市民サービスを安定的に提供できるよう、庁内に推進組織を新たに設置し、集中的かつ迅速な行財政改革による財政健全化を推進します。

将来を見据えた行財政改革の断行

- 公共施設統廃合・整備と集約化の推進
- 施策、事務事業の見直し
- 投資的経費の抑制（合併特例債事業・補助事業を除く。）
- 市税等の歳入の確保

周南市紹介

周南市は、山口県の東南部に位置し、北に中国山地を背に、南に瀬戸内海を望み、その海岸線に沿って大規模工業が立地し、それに接して東西に比較的幅の狭い市街地が続いています。

北側には、なだらかな丘陵地が広がり、その背後の広大な山稜には農山村地帯が散在しています。

また、島しょ部は、瀬戸内海国立公園区域にも指定されており、美しい自然景観を有しています。

誕生 平成15年(2003年)4月21日
(徳山市・新南陽市・熊毛町・鹿野町の合併による)

面積 656.32平方km[東西約37km、南北約39km]
(平成22年(2010年)10月1日国土地理院調べ)
東京23区(621.97平方km)、シンガポール(707平方km)とほぼ同等

人口 総計151,869人(67,875世帯)
男73,288人 女78,581人
(平成24年(2012年)2月29日現在)

市の木 クスノキ

市の花 サルビア



周南市まちづくり総合計画
後期基本計画【改訂】概要版
平成24年(2012年)3月

編集・発行 周南市

〒745-8655 山口県周南市岐山通1-1

電話/0834-22-8478

Eメール/kikaku@city.shunan.lg.jp

ホームページ/http://www.city.shunan.lg.jp/

平成24年(2012年)3月

周南市

基本方針

1 内容に関する基本方針

① 安心安全・ふるさとを守る

まちづくりにおいて、最も優先すべきは、市民の生命と財産を守ることです。市民の安心安全を第一に、このたびの震災の教訓を踏まえ、早急に全市的な危機管理体制の構築に取り組みます。

② 「絆」を大切にしたまちづくり

お互い支え合う温かみのある「絆」が一層深まるよう、さらなる地域コミュニティ活動の充実に向けた支援をしてまいります。

3 行財政改革に関する基本方針

① 選択と集中

市民にとって欠かすことのできない行政サービスを提供し続けるためには、これまでの「あれも、これも」から、「あれか、これか」の市政運営に転換することが急務です。

市民目線に立った施策を厳選し、しっかりと実行する「選択」と「集中」によるまちづくりを推進します。

2 手法に関する基本方針

① 自助・共助・公助

本市が自立し持続可能なまちづくりを進めるため、市民をはじめとする多様な主体が、自らの努力により自立して活動することができる状態（自助）を基本とし、加えて市民同士や地域社会の中で、相互に助け合い（共助）ながら進めるまちづくりを目指します。また、自助・共助によることが困難な部分については、行政が責任を持って補う（公助）体制とします。

② 創発的なまちづくり

従来の行政主導によるまちづくりから、市民も施策や事業に参画するまちづくり、市民と行政の協働によるまちづくりを進めます。

さらにまちづくりの手法として、市民が新たな価値観やアイデア、相互関係を創造し、具体的な活動を誘発する「創発的なまちづくり」を目指します。



最重点プロジェクト

1 安心安全・ふるさとを守るプロジェクト

市民がいつまでも安心して暮らせることを最優先に、地域防災計画の見直しにより全市の防災体制の再構築を図り、特に、市民生活に甚大な影響を及ぼす自然災害や、本市臨海部に立地する石油化学コンビナートにおける万一の事故に備えた対策を推進します。

将来を見据えた安心安全の確保

防災体制の整備

- 新庁舎の建設
- 備蓄品の整備
- 消防力の強化充実
- 災害時等の情報伝達システムの整備
- 災害時に対応した全市ネットワークの構築
- 自主防災組織の育成

防災意識の高揚

- 防災教育の推進

公共施設の整備

- 学校施設等の耐震化の推進
- 公共施設耐震化計画の検討



2 明日へ繋げるコミュニティプロジェクト

地域の課題を自ら探り、ともに考え、行政との協働により解決に向けて取り組む地域コミュニティは、愛着と誇りを持って暮らし続けられるまちづくりのための重要な基盤となります。その地域コミュニティ充実に向けた支援はもとより、地域と地域、地域と行政とを結ぶ中間支援組織の強化とともに、多様な主体のまちづくりへの参加を促進し、地域や団体の相互交流の深化を通して、本市の自治力、地域力の向上を図ります。

将来を見据えた自治力、地域力の向上

地域コミュニティ充実のための支援強化

- 公民館による地域コーディネート推進
- 活動拠点の整備
- コミュニティ中間支援組織の強化
- 頑張るコミュニティに対する重点支援

市民活動の促進

- 市民活動を担う人材の育成
- 市民活動支援拠点の充実



3 多様な地域資源活用プロジェクト

優れた地域資源の活用により、本市の賑わいを創出し、地域経済に直接的・間接的効果を波及するため、全国規模の各種コンベンションの誘致や体験滞在型の交流を推進するとともに、徳山駅周辺整備や中心市街地の活性化によるまちの魅力向上はもとより、受け入れ態勢などの環境整備に取り組みます。

将来を見据えた賑わい、交流の創出

- コンベンションシティ^{※1}の推進
- ツーリズム^{※2}の推進
- 瀬戸内海国立公園の整備活用の推進
- 動物園リニューアルの推進
- 中心市街地の活性化の推進
- 徳山駅周辺整備の推進

※1 コンベンションは「会議」と直訳されるが、本市では、大都市のような国際会議場を拠点としたまちを目指すのではなく、観光や各種イベント参加などの様々な理由で本市に「集い」また「交流」することで、地域活性化を目指す。

※2 農林水産物、歴史、郷土料理など、地域資源を生かした体験型の交流を柱に、地域に人や経済の循環を創出するもの。

4 中山間地域振興プロジェクト

本市の面積の約7割を占める中山間地域は、かけがえのない暮らしの場としてだけでなく、水源のかん養やCO₂の吸収など、様々な恵みを私たちにもたらしています。

しかし、人口減少や少子高齢化に伴い、暮らしに不安を抱える地域や存続が危ぶまれる集落も現れはじめています。

そのため、全市民の共通理解のもと、地域を持続可能なかたちで次の世代に繋げられるよう、あらゆる主体の知恵と力を結集し、重点的かつ総合的な中山間地域の振興を進めます。

(1) 中山間地域づくりの目標

「人・自然・経済が循環する活力溢れる中山間地域」の実現

(2) 重点施策

持 続可能な地域の運営体制づくり

- 地域コミュニティの再生・強化
- 地域の夢応援体制づくり
- 地域の主体性を尊重する仕組みづくり

安 心して誇りをもって暮らせる地域づくり

- 身近な暮らしを支える機能の維持・確保
- 暮らしを守る生活交通の維持・確保
- 農地・山林の保全
- 歴史・伝統文化の保存・継承

地 域資源を生かした好循環づくり

- 多様なツーリズムの促進
- 農林水産物・知恵・技を生かした経済環境づくり
- U・J・Iターンの促進
- 緑の資源循環づくり

生 活・産業基盤の整備

- 生活環境の整備
- 産業基盤の整備

